◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 滋賀県陶芸の森 【滋賀・甲賀】（https://www.sccp.jp/exhibitions/20137/）

10 月 11 日（土）～12 月 14 日（日）

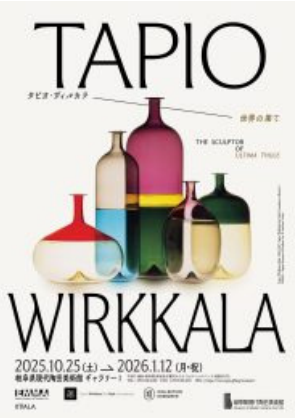
特別展：「九谷赤絵の極致　宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」

「九谷赤絵」とは、九谷焼の様式の中で、赤と金の細密描写を特徴とする絢爛豪華なやきものです。九谷焼の赤絵は、石川県加賀市に開窯した「再興九谷」の宮本屋窯（1832～1859）で大成されました。宮本屋窯の赤絵は、黒みがかった赤（通称・血赤）で文様を細かく描き込んだ赤絵細描と、金彩とともに赤以外の上絵釉を用いた点が特徴です。また画題の一部に、中国・明時代の墨の文様集『方氏墨譜』から着想を得たことで独自の表現を広げました。とりわけ、主画工・飯田屋八郎右衛門（1801～1848）が、細密描写に優れた手腕を発揮しました。「九谷赤絵といえば宮本屋窯」と呼ばれ、その絵付は極めて繊細で、完成に多くの時間を要するため現存数が極めて少なく、これまで全国的に一堂に展示紹介される機会がありませんでした。本展では、細密描写という高い技術力に支えられた九谷赤絵の珠玉の作品の数々をご覧いただきます。

2. 岐阜県現代陶芸美術館 【岐阜・多治見】（https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-10380）

10 月 25 日（土）～2026 年 1 月 12 日（月・祝）

特別展：TAPIO WIRKKALA：THE SCULPTOR OF ULTIMA THULE　タピオ・ヴィルカラ ― 世界の果て



フィンランドのモダンデザイン界で圧倒的な存在感を放つタピオ・ヴィルカラ（1915～1985）の日本初回顧展です。1946 年、ガラス製造会社イッタラのデザインコンペ優勝を機にヴィルカラは同社のデザイナーに起用され、約 40 年にわたり第一線で活躍しました。セラミック・アーティストの妻ルート・ブリュック同様、ラップランドの静寂をこよなく愛し、生命の神秘や大自然の躍動を着想源に、「ウルティマ・ツーレ」（ラテン語で「世界の最北」を表す言葉）をはじめとするガラスの名作を誕生させました。デザインの対象はガラスのほかに磁器、銀食器、宝飾品、照明、家具、紙幣、グラフィック、空間まで広くおよび、あらゆる素材に向き合い、触覚と視覚を鋭く働かせて生みだす洗練されたフォルムがヴィルカラの作品の見どころです。また、神話をモチーフにしたガラスのオブジェや、自ら開発した積層合板を用いたオブジェにはプロダクト・デザイナーとは異なる表現者の顔ものぞかせます。本展は、エスポー近代美術館、タピオ・ヴィルカラ ルート・ブリュック財団およびコレクション・カッコネンから厳選したプロダクトやオブジェ約 300 点に加え、制作過程や背景を明かすドローイング（複写）や写真を展示します。生誕 110 年、没後 40 年を迎える 2025 年、繊細にしてダイナミックなヴィルカラの造形の魅力に迫ります。

3. サントリー美術館 【東京・港区】（https://www.sunt ory.co.jp/sma/exhibition/2025_5/index.html）

11 月 22 日（土）～2026 年 1 月 12 日（月・祝）

企画展：NEGORO 根来―赤と黒のうるし

中世に大寺院として栄華を極めた根來寺（和歌山県）で作られた質の高い朱漆器は「根来塗」と呼ばれて特別視されてきました。本展は、根來寺が繁栄を極めた中世の漆工品を中心に、その前後の年紀を有する品や伝来の確かな名品・名宝を一堂にご紹介いたします。中世に花ひらいた、日本を代表する漆の美を心ゆくまでお楽しみください